

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区平河町 27-5 (砂防会館内)

電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664

ホームページ <http://zensuiren.org/>

お問い合わせ zensuiren@k2.dion.ne.jp

編集・発行 下 川 順



写真：甲武信岳の山中（山梨県）

目 次

河川愛護月間をふりかえって.....	2
平成 24 年度「森と湖に親しむ旬間」実施状況	4
四国地方治水大会についてご案内.....	8
東北地方治水大会（秋田大会）のご案内.....	10
北陸地区治水大会の開催について（ご案内）	12
<small>おながわ</small> 舟川ダム竣工.....	15
全水連便り.....	18

河川愛護月間をふりかえって

国土交通省では、昭和 49 年から毎年 7 月を「河川愛護月間」と定め、河川愛護運動を実施しています。

本年度においても、「せせらぎに ぼくも魚もすきとおる」を推進標語として、各地方整備局、都道府県、市町村が主体となり、全国各地でポスター、チラシ等による広報活動をはじめ、河川のクリーン作戦、絵画・作文のコンクール等、多様な活動が、地域住民、河川愛護団体、関係行政機関等の協力を得て実施され、多数の方々の参加をいただきました。

月間中に行われた行事等の成果を踏まえて、今後とも、地域住民、市民団体等と協力した流域全体の良好な河川環境の保全・再生への取り組みを

積極的に推進するとともに、年間を通して、国民の河川愛護意識の醸成に努めてまいりたいと考えております。

また、今年はこちらの活動に加え、河川愛護月間推進特別事業として、「川遊び～川での思い出・川への思い」をテーマに絵と文章を組み合わせさせて描いた絵手紙の募集を 9 月 24 日まで行っており、関係機関誌等を通じ、引き続き広く募集活動を行っております。

募集についての詳細は、国土交通省水管理・国土保全局ホームページ中『河川愛護月間』(<http://www.mlit.go.jp/river/aigo/index.html>) に掲載しております。



熊野川・市田川クリーンキャンペーン（紀南）



【北陸】H240711 水生生物調査（羽越河川国道事務所）



重信川② (愛媛県)



土器川② (香川県)

平成 24 年度「森と湖に親しむ旬間」実施状況

A ten-day campaign for getting familiar with forests and lakes

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課
River Environment Division, Water and Disaster Management Bureau,
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

農林水産省、国土交通省、独立行政法人水資源機構、都道府県、市町村は、人々に森や湖に親しむ機会を提供することにより、心身をリフレッシュし、明日への活力を養っていただくとともに、そうした機会をとおして森林やダム湖のもっている自然豊かな空間や社会生活に果たしている役割などを理解していただくことを目的として、毎年 7 月 21 日から 31 日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。

本年度も、全国各地のダムやその周辺の森林を会場として、ダム見学会、水辺や森林などの自然とふれあい親しむ教室、森や湖について理解を深めることができるレクリエーション等の行事が開催され、多くの方の来訪がありました。

この中のいくつかのダムにおける、イベントの実施状況を紹介します。

○ 鹿ノ子ダム「森と湖に親しむ旬間」関連行事

鹿ノ子ダムでは、心身をリフレッシュし、明日への活力を養い、森林やダム・河川の大切さや関心を高めることを目的に「おけと湖水まつり」が



ダム操作室の見学

開催され、約 1,100 人の来訪者がありました。イベントでは、ダム見学会を開催し、来訪者にダムの堤体内や操作室、ゲート室などを実際に見ていただき、ダムの役割などを学んでいただきました。

また、メイン会場のおけと湖畔多目的広場では、流木アート体験会、魚つかみどり大会などのほか、網走中部森林管理署による木工教室（竹とんぼ・MY 箸づくり）、NPO 法人による E ボート試乗会などが行われました。



竹とんぼ・MY 箸づくり

○ 石淵ダム「森と湖に親しむ旬間」関連行事

石淵ダムと胆沢ダムでは、「石淵ダム・胆沢ダムふれあい祭」を合同で開催し、約 300 名の方に来訪いただきました。ふれあい祭では、石淵ダム堤体見学、石淵ダム湖面巡視体験、胆沢ダム天端ウォーク、パネル展及びビデオ上映会、また、森林管理署による森林教室が行われました。

今年 9 月末で管理を終える予定の石淵ダムの最後の勇姿を見たいと、お年寄りから親子連れ、また県外からも見学者が多数訪れ、石淵ダムを感慨深げに見学すると共に、胆沢ダムの天端から眺める胆沢平野の雄大な景色を堪能していただきました。



ゲートを間近に見る見学者



天端ウォーク

○ 大町ダム「森と湖に親しむ旬間」関連行事

「高瀬渓谷フェスティバル 2012」では、ダムの堤体内の見学やダム湖（竜神湖）を舟で廻るダム湖の巡視体験を行いました。また、中信森林管理署による丸太切り体験や木工品作り、北安曇野溪流会と北安中部漁業協同組合による親子テンカラ釣り体験、国営アルプスあづみの公園によるサンドアート作りや石器（ペンダント）作り、松本砂防事務所による砂防事業パネル展示等が行われ、



ダム湖巡視体験

約 600 人（H23 年度は約 60 人（雨天により途中で中止。)) の親子連れの方などが来場され、心身をリフレッシュしてもらい、ダムや森林等の役割への理解を深めていただきました。



丸太切り体験・木工品作り

○ 長島ダム「森と湖に親しむ旬間」関連行事

長島ダム管理所では、普段では体験できないダム内部の見学やダム湖パトロール体験ツアーを開催し、ダム事業について理解していただきました。大井川治山センターや関係自治体等からは、パネル展示によって事業をわかりやすく紹介しました。また、地元 NPO はダム湖面でカヌーツアーを開催しました。

本イベントには約 500 名もの皆様にお越しいただき、奥大井の大自然を満喫しながら、ダムや森林の重要性について理解を深めていただくことができました。

なお、10 月 28 日（日）には地元地区のイベントとタイアップした「接岨湖もみじまつり」を開催します。ダム見学や好評のダム湖パトロール体験ツアー、紅葉ハイキングなどを実施しますので、



カヌーツアー



パネル展示

皆様お誘い合わせの上、お越してください。

○ 真名川ダム「森と湖に親しむ旬間」関連行事

7月28日(土)に開催した真名川ダム会場では、工作教室、パネル展示や真名川ダムの非常用ゲート操作設備、堤体内通路、キャットウォーク、管理用発電設備、噴水設備などの見学を通じて、森林やダム、河川等の重要性について理解を深めて頂くとともに、ダムのスケールや構造を体感して頂きました。また、今年は新たに大野市及び北陸電力(株)によるパネル展示を行い、福井県が管理する7ダムの見学会を開催しました。

当日は天候に恵まれ、真名川ダム会場では約270人、福井県が管理する7ダム会場にもたくさんの家族連れの方々などが県内外から来場されました。

7月29日(日)には、九頭竜ダム並びに電源開発長野発電所の見学会も開催され、子供から大人まで幅広い年齢層がダムや森林に親しんだ旬間となりました。



アーチ式ダムを体感する見学者



木工工作やパネルでの紹介

○ 石手川ダム「森と湖に親しむ旬間」関連行事

石手川ダムでは「自然と遊ぼうDAY!」「ダム見学会」を開催しました。「自然と遊ぼうDAY!」は、石手川ダム上流のせせらぎ公園において実施し、小学生とご家族100名の参加がありました。地元大学の先生による落ち葉の下の昆虫探索、水中生物観察、愛媛森林管理署による愛媛県産材を使った木工品製作教室、松山市東消防署による水難救助講習、川遊びを行い、水源地域の自然を満喫していただきました。「石手川ダム見学会」は、合計367名の参加があり、ダム堤体内の監査廊、コンジットゲート室、ホロージェットバルブからの放水、操作室などの普段目にする機会のない場所の見学を行い、ダムの役割や仕組みなどを理解していただきました。



水中生物観察



ダム直下で放水される様子を見学

国土交通省では、今後とも農林水産省等の関係機関と連携しながら、全国の各地でこうしたダムと森林の役割を人々に広く理解をしていただくための取り組みを推進・充実するとともに、限られた水資源の有効活用や水源地の活性化の推進を図ってまいります。



四国地方治水大会についてご案内

平成 24 年 10 月 31 日 13:30

高知市 高知会館

高知県土木部河川課

今年度の四国地方治水大会の事務局を担当します高知県から PR をさせていただきます。関係者の多数のご参加をお願いいたします。

高知県は、四国の南部に位置し、太平洋の青い海、豊かな森林と水資源に恵まれた県で、これらの自然環境が調和し、豊かで変化に富んだ風土が作られています。

特に、山地が多く森林面積の割合が約 84% と日本一の森林県です。その森林を源とする河川は、県北部を東西に徳島県に向かって流れる一級河川吉野川と、県西部を流れ日本最後の清流と言われ知名度も高い一級河川四万十川、全国一級河川の水質ランキング 1 位となった仁淀川など、日本を代表する河川があり、豊富な水量、清らかな水をたたえています。仁淀川については、今年 3 月の NHK スペシャル「仁淀川 青の神秘」で美しい映像の数々が紹介され、その透き通った水はここでしかみることのできない独特の青「仁淀ブルー」として、知名度も上がり観光に訪れる方も非常に増えています。

一方、本県は県下全域にわたり年間降水量 2,000mm 以上と全国でも有数の豪雨地帯で、これまでも洪水被害により数多くの人命や財産が失われてきました。かつては、毎年のように台風が襲来する「台風銀座」と言われていました。近年の大水害は、平成 10 年に県都高知市で 24 時間最大雨量 768mm を記録した「'98 高知豪雨」、平成 13 年に本県西南部を泥の海と化した「高知県西南部豪雨」、共に秋雨前線に、暖かく湿った空気が次々と流れ込み「湿舌」と呼ばれる気象現象が起こり、猛烈な集中豪雨を引き起こした甚大な洪水被害です。

その後も、平成 16 年、17 年と連続して台風や集中豪雨に見舞われ、県内各地で大きな被害を受けており、河川改修が急がれるところですが、河川整備率は全国最下位クラスの 37.5%（平成 22 年度末）にとどまっています。

このような状況の中、安全で安心な県土づくりを進めていくため、近年に浸水被害が大きかった地域の河川改修を重点的に促進するとともに、早



新川川 河川改修の状況



江ノ口川排水機場 長寿命化

期に事業効果が発揮できる事業への集中投資を行っています。その他に、ライフサイクルコストの縮減を目的として、排水機場など既存施設の長寿命化を計画的に行うことを進めています。

また、高知県では、発生確率が今後 30 年以内に 60% とされている南海地震に備えた対策が急務となっています。3 月末に南海トラフの巨大地震に関する報告が内閣府から公表されましたが、最大クラスの津波の推計として 30 m を超える津波高が黒潮町と土佐清水市で想定されるなど、本県は全国で最も厳しい数値となっています。この最大クラスの津波に対しては、県民の生命を確実に守ることを念頭に、津波避難対策に取り組んで

います。

一方、海岸や河川堤防等のハード施設については、発生頻度の高い地震への備えを基本に、最大クラスの津波に対しても避難時間を稼ぐなどの減災効果が発揮できる粘り強い構造とすることを基本方針として、整備を進めています。

最後に、高知といたしますと、やはり坂本龍馬、一昨年の大河ドラマ「龍馬伝」ブームを核として、観光キャンペーンを展開しています。今年 4 月からは、「わざわざ行こう！志国高知へ」をキャッチフレーズに「リョーマの休日」キャンペーンを実施しておりますので、高知の豊かな自然や食を堪能しにお越しいただければと思います。



国分川 河川堤防耐震化工事

東北地方治水大会（秋田大会）のご案内

平成 24 年 10 月 26 日（金）13:30～
秋田市ホテルメトロポリタン秋田
秋田県建設部河川砂防課

今年度の東北地方治水大会の事務局を担当している秋田県から秋田大会のご案内をさせていただきます。

東北地方治水大会は、東日本大震災の影響を考慮し昨年度の開催を見合わせたため、今回が震災後はじめての大会となります。震災から 1 年半が経過し、復興に向けた動きが少しずつかたちになってきましたが、その動きはさらに加速されることを求められています。東北六県が一堂に会し今大会を盛会に行うことにより、東北の復旧・復興と治水事業促進の追い風となるよう願っております。

今回は、「あきた美の国大使」でもある加藤夏希さんから御講演いただくこととしています。河川や故郷にまつわる話のほか、普段耳にすることのできない貴重なお話もあるかもしれません。大会第 1 部を楽しんでいただくことで、第 2 部の成功と治水事業への気運の高まりにつながるよう期待しております。

関係者の方々から、たくさんのご参加をいただけるようお願いいたします。

また、大会会場は秋田駅前になります。周辺には秋田の食を提供する店舗がたくさんありますので、大会前の昼食などにご利用いただき、ご堪能ください。また、当日は駅前アゴラ広場周辺で県や農林関係者が主催するイベントもあるので、足をお運びいただき、この機会に秋田の街を散策していただければ幸いです。

さて、秋田県を流れる河川は、雄物川、米代川、子吉川の一級水系 302 河川、二級水系 51 河川で合計 353 河川が流れており、総延長は約 3,190km にもなります。

近年、気候変動の影響等により集中豪雨（いわゆるゲリラ豪雨）が県内でも多発しており、水害が頻繁に発生しておりますが、県管理河川の整備率は平成 23 年度末で 45.4% にとどまっている状況にあります。また、県土の 7 割を山地が占め、土石流対策や地すべり対策等が必要な箇所は約 7 千箇所にのぼります。

秋田県における近年の水害としては、平成 19 年 9 月の豪雨災害があげられます。米代川水系阿仁川流域では総雨量が 250mm を超え、越水や堤防決壊による浸水被害が発生し、この影響で 1 万 3 千人に避難指示・勧告が発令され、北秋田市阿仁前田地区を中心に 360 戸が家屋浸水するなど甚大な被害を及ぼしました。

そのため、激甚な被害の発生した阿仁川では、家屋浸水等を解消し、再度災害を防止するために災害復旧助成事業によって、築堤や河道掘削を行うなどの抜本的な対策を実施しました。

また、阿仁川の助成事業による流出増に対応し、下流側の流下能力を確保して安全に流下させるため、直轄河川災害復旧等関連緊急事業によって、米代川の河道掘削、堤防強化を実施し、上下流一体となった整備を行いました。

これらの事業と阿仁川上流の直轄森吉山ダムが平成 24 年 3 月に竣工し、流域の治水安全度は格段に向上するなど浸水被害の軽減が図られ、治水事業の必要性を再認識したところです。

最後に、秋田県の観光について紹介いたします。

今年度から 3 年間、秋田県ではイベントが目白押しです。平成 25 年秋には「デスティネーションキャンペーン」が、平成 26 年秋には「国民文化祭」が開催され、今年行われるプレキャンペーンを含めて、秋田の観光を飛躍させる絶好のチャンスと捉え、官民一体となって頑張っております。

県では、今年度から、観光と農産物や食品の販売、交通、文化、スポーツなどを一元化し、新たに「観光文化スポーツ部」を立ち上げました。秋田ならではの観光資源を活かし、観光客の皆さまを“おもてなし”するための様々な取り組みを進めております。

「温泉」をはじめ、「食」「文化」「歴史」などで、今まで以上に秋田を楽しんでいただけたらと思いますので、期間中に、是非、秋田にお越しください。皆さまのお越しをお待ちしております。



あきたびじょんロゴ



講師 加藤夏希さん



阿仁川災害写真



森吉山ダム

北陸地区治水大会の開催について（ご案内）

開催日時：平成 24 年 10 月 23 日 13:30～

会 場：金沢市堀川新町 1-1

ホテル金沢 4F エメラルド

今年度、北陸地区治水大会の開催をお世話させていただきます石川県から、本県の PR も含めご案内申し上げます。関係各位の多数のご出席を賜りますようお願い申し上げます。

【石川県の概要及び近況等】

石川県は本州のほぼ中央部、日本海側に位置し、地形は南北に細長く（東西約 100km、南北約 198km、海岸線約 581km）、南は日本三名山の一つに称えられる白山^{はくさん}を水源とする手取川^{てとりがわ}などで形作られた肥沃な加賀平野、北は日本海に突き出た能登半島からなり、白山国立公園、能登半島国立公園などに代表されるように豊かな自然に恵まれています。

また、海岸線は、波打ち際を車で走行できる千里浜^{ちりはま}海岸のほか、能登金剛^{そそぎ}や曾々木^{そそぎ}海岸などの荒々しい能登外浦、七尾湾^{つくも}や九十九湾^{つくも}などの穏やかな能登内浦など、長く変化に富み、それぞれ特色ある地形を形成しています。

県内総人口は約 116 万人で、11 市 8 町の行政区画で構成されており、県都金沢は行政面・経済

面で北陸 3 県の中核的な存在となっています。また、九谷焼や輪島塗、加賀友禅など多くの伝統工芸品が国指定とされているほか、日本三名園の兼六園をはじめとした名所・旧跡など、江戸時代加賀藩主前田家が築いた加賀百万石の伝統・文化が今なお息づいています。

気候は日本海側気候であり、西寄りの季節風が対馬暖流の影響で水蒸気を蓄え、白山山系など山岳部に当たり、夏は降雨、冬は降雪をもたらすことが多く、年間降水量は国内でも上位であり、北陸地方の常で冬期の日照時間が少ないことも特徴となっています。

なお、今年度の石川県は、今のところ大きな水害は発生しておりませんが、例年に比して梅雨期から夏季にかけて小雨であったことから、8 月から 9 月にかけて、能登地区の上水・灌漑用の寺田川ダムで貯水率が一桁まで落ち込む渇水に見舞われました。地元の能登町^{のとちよう}においては、公共の利水施設の休止や給水制限を実施しながら、近隣地区の河川から給水するなどの対策により、断水措置なく急場をしのぐことができました。



千里浜なぎさドライブウェイ



柴山瀧と初冬白山

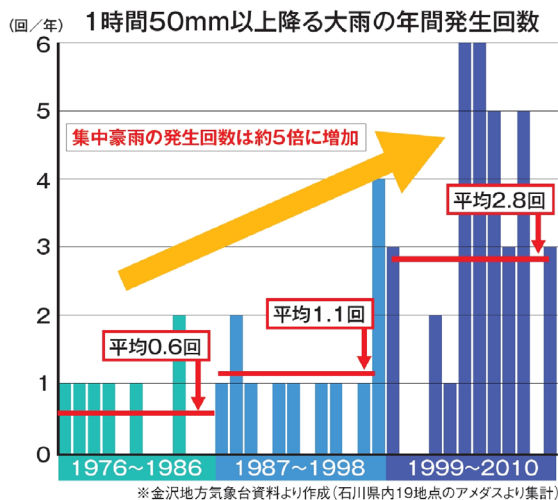
【河川の概要】

本県は南北に細長い半島地形という特色から、県内最大の手取川に代表されるように、水源から河口までの標高差が大きく距離が短い急流河川が多いという特徴を有しています。

河川は、一級河川として、手取川（長さ 72km、）と梯川^{かけはしがわ}（長さ 42km、）の 2 水系 48 河川があり、その他、二級河川の 60 水系 164 河川と併せ、県管理河川は 62 水系 212 河川となっています。さらに、準用河川を含めると 121 水系 393 河川となり、河川の整備率は平成 23 年度末で 43.9% となっています。

【至近約 20 年における集中豪雨の増加】

近年、局地的豪雨による被害が全国的にも拡大傾向にある中、金沢地方気象台の県内 19 地点のアメダス観測データによれば、時間 50 ミリ以上の大雨の年間発生回数は、1976 年から 86 年までの 11 年間に平均 0.6 回であったものが、1999 年から 2010 年までの 12 年間では平均 2.8 回に上昇し、20 余年間のうちに約 5 倍に増加していることがわかりました。



【近年の主な浸水被害と治水対策】

このような集中豪雨が増加するおり、平成 20 年 7 月に県都金沢市を流れる浅野川の上流部において最大 60 分雨量 138mm、最大 3 時間雨量 251mm を観測する局地的な集中豪雨により、上流部では土砂災害や浸水被害が発生するとともに、計画を上回る洪水が流下した金沢市の市街地でも、堤防の越水により甚大な浸水被害が発生しました。

石川県では、この洪水被害を教訓として、放水路でつながっている浅野川と犀川の両河川で流下能力を向上させるとともに、犀川上流部で進めていた辰巳ダムの建設を促進し、金沢市街地の安全性の向上を図ることとしました。

具体的には、浅野川では、流下能力が不足している中流部において河床掘削及び堰の改築により洪水時の水位低下を図るとともに、放流先である犀川では、流下能力が不足している河口～伏見川合流点区間の整備促進と、鞍月用水堰の撤去完了を平成 25 年度の梅雨期までに実施し、浅野川放水路の放流量制限の解除（現行 150m³/s →解除後 250m³/s）を目指すこととしております。

また、犀川の上流で建設中の辰巳ダムは、金沢市街地の治水対策の根幹として大きな役割を果たすものであり、犀川、浅野川の河川改修と一体的に建設を進めております。

ダムの諸元は、堤高 47 メートル、堤頂長 195 メートル、総貯水容量 600 万立方メートルの重力式コンクリートダムで、全国で 2 例目の流水型の洪水調節専用ダムとなります。

この流水型ダムの特徴は、普段は水をためず、洪水吐きを川底と同じ高さに設置していることから、ダムがあっても上下流の川の連続性を確保でき、自然の川と同じように魚の遡上が可能となるなど、環境への影響を軽減できる点にあります。

なお、大雨が降った場合には、洪水吐きから流れ出る量が制限されておりますので、ダムの上流から流れてくる河川の水量が多くなれば、自然と洪水の水がたまり始め、下流河川への流量を調節するものです。

事業期間については、昭和 50 年度に国の補助を受け調査を開始して以来、付け替え道路などの整備を経て、平成 20 年に本体工事に着手し、本年 6 月に運用を開始しました。現在、残るダム周



浅野川小橋用水堰の改修状況

辺整備工事等を実施しており、完了後の 11 月 4 日に竣工式をとり行うこととしております。

また、浅野川を襲ったこの洪水では、短時間のうちに浅野川の水位が急激に上昇したことから、上流域における観測データにより水防体制を執るなど、水防における初動体制の迅速化を図るとともに、雨量・水位等の情報伝達機能の強化を図りました。

石川県では、この他にも、近年浸水被害が発生している河川において再度の浸水被害を防止するため、治水安全度の向上を目的とし、選択と集中により河川整備を進めています。

一例としては、加賀市の片山津温泉街が面する柴山潟の片山津地区においては、宅地の地盤高が低く堤防高が足りないことから、平成 18 年 7 月の梅雨前線豪雨時など平成 10 年以降 100 戸を越える浸水被害が 3 度も発生しました。

このため、平成 19 年度から湖岸堤の整備を重点的に進めており、今年度中には過去の浸水区域の対策を完了させることとしています。

今後も、過去の災害の再発防止対策を図るとともに、緊急性の高い箇所^{かたやまづ}の改修を重点的に行うなど、県民の安全・安心の更なる向上に努めていくこととしております。

【石川県における今後の動き】

平成 26 年度末までには、北陸新幹線の金沢開業が予定されており、東京と金沢が 2 時間 30 分で結ばれることで、今後、ますます、産業、文化、観光など各分野の交流が盛んになるものと期待されております。

本県でも、開業に先立ち、例えば土木部関連では、平成 25 年 4 月から金沢地区と能登地区を結



辰巳ダム上流側

ぶ能登有料道路を無料化し、愛称を“ふるさと紀行「のと里山海道」”に決定するなど、利便性の向上を目的とした道路網の整備や、無電柱化の推進など景観に配慮した町並み整備、観光資源としての魅力の創出や向上を目的とした金沢城公園の整備促進や千里浜海岸の保全など、様々な面から開業に向けた取り組みを進めているところであります。

【北陸地区治水大会の開催】

最後になりましたが、隔年ごとに開催している北陸地区治水大会は、今年度、10 月 23 日（火）に加賀百万石の城下町である金沢市で開催することとしております。

皆様、ご来県の際は、兼六園や金沢城公園、武家屋敷など、歴史や伝統文化に触れていただくとともに、お時間が許されれば、昨年度、国内では初めて、佐渡とともに世界農業遺産に登録された「能登の里山里海」や、近く開湯 1,300 年を迎える粟津温泉を始めとした片山津、山代、山中の加賀温泉郷などをご堪能いただくのもよろしいかと存じます。

皆様のお越しを心からお待ち申し上げております。

ふながわ 舟川ダム竣工

富山県土木部河川課

はじめに

舟川ダム（生活貯水池）は、富山県の東部、二級河川おがわ小川水系舟川の上流部である下新川郡しもにかわぐん入善町舟見地内に建設する多目的ダムとして、平成 3 年度から予備調査を行い、平成 5 年度に建設事業に着手しました。

着手以降、用地取得、付替林道工事が順調に進み、平成 18 年 12 月には、ダム本体工事を開始し平成 24 年 1 月から試験湛水を開始、4 ヶ月後の 5 月に完了しました。そして、本年 8 月 28 日に舟川ダムの竣工式を行いました。



図-1 位置図



写真-1 試験湛水時サーチャージ水位到達(3/26)

事業の必要性

舟川は、その源を入善町の負釣山おいつるしやま（標高 959.3m）に発し、下新川郡朝日町舟川新地先で小川に合流する流域面積 20.5km²、流路延長 10.56km の中小河川ですが、急流であることから昭和 44 年 8 月の台風 7 号による洪水では、流域において浸水家屋 67 戸、浸水農地 93ha となる甚大な被害が発生したのをはじめ、近年においても護岸の決壊や氾濫などの洪水被害が発生しています。

一方、平成 6 年、12 年の夏場には、川がほとんど干上がり、農業用水の取水が出来ないうえ、動植物の生息・生育など良好な河川環境を確保できない事態が発生しました。

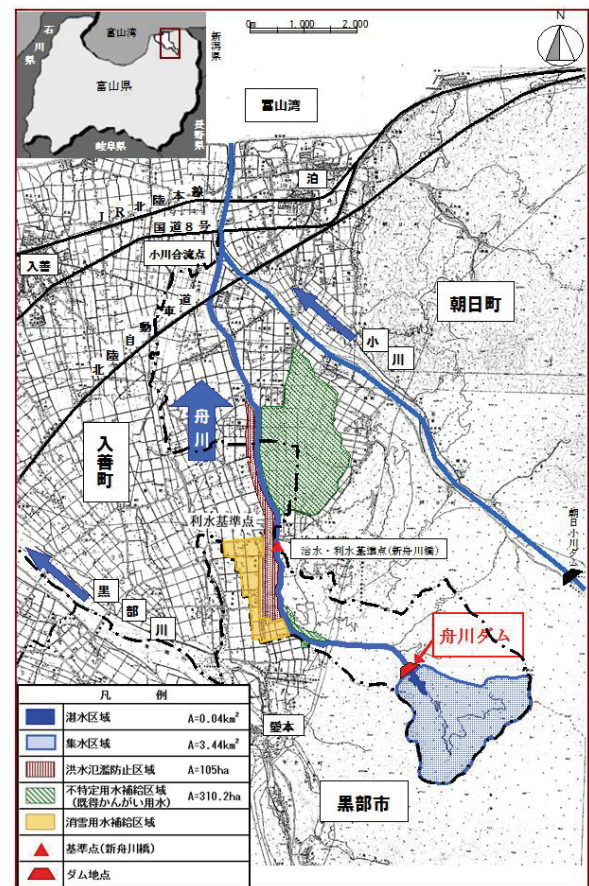


図-2 流域図

舟川ダムの概要と目的

舟川ダムは、堤高 49.8m、堤頂長 160.5m、堤体積 70,700m³ の重力式コンクリートダムで、貯水池は、集水面積 3.44km²、湛水面積 0.04km²、総貯水容量 600,000m³、有効貯水容量は 360,000 m³ となっています。

また、舟川ダムは、以下の 3 点を目的として建設されました。

①洪水調節（治水）

ダム地点の計画高水流量 45m³/s のうち、25 m³/s をダムに貯めて洪水を調節し舟川沿川地域（入善町、朝日町）を洪水から守る。

②河川環境の保全及び既得用水の安定化

河川の流量が少ない渇水期において、河川に必要な流水を確保するとともに、ダム下流域の農業用水の補給を行う。

③消雪用水の確保（利水）

地元の入善町が、冬期間の道路消雪に利用するため、消雪用水を確保する。

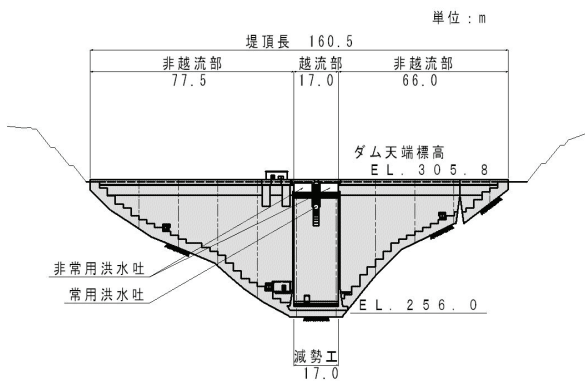


図-3 下流面図



図-4 貯水池容量配分図

竣工式

竣工式は、最高気温 34℃となる猛暑の中、舟川ダムサイトにおいて、地権者の皆様をはじめ、富山県知事、国土交通省、県議会議長、地元入善町長、地元自治会のほか工事関係者を含め約 150 名が参加し執り行われました。

式典は、石井富山県知事の式辞から始まり、国土交通省水管理・国土保全局長（代理：嶋崎同局治水課事業管理室課長補佐）、山辺富山県議会議長、舟川総合開発促進期成同盟会会長の米澤入善町長が祝辞を述べたあと、中川新川土木センター入善土木事務所長が工事経過報告を行いました。続いて、ダム名が刻まれた記念碑の除幕とくす玉開披を行ったあと、参加者一同で万歳を三唱し、ダム竣工の喜びを分かち合いました。



写真-2 竣工式 石井富山県知事 式辞



写真-3 竣工式 除幕とくす玉開披

アトラクション

竣工式後には、アトラクションとして、地元小学生による「合唱」と「リコーダー演奏」、地元舟見地区に古くから伝わる「舟見本陣太鼓」が披露され、会場は大いに盛り上がりました。



写真-4 地元小学生によるリコーダー演奏



写真-5 舟見本陣太鼓



写真-6 アトラクション参加者と記念撮影

おわりに

舟川ダムは、沿川の皆様の生命・財産を洪水から守るとともに、河川環境の保全、農業用水や消雪用水の確保、さらには、観光の振興、地域の皆様方の憩いの場の創出など、地域の発展に大きく貢献するものと期待しています。

最後に、舟川ダムの建設にあたり、貴重な土地をご提供いただいた地権者の皆様をはじめ、関係各位のご支援、ご協力に対して心より感謝申し上げます。



写真-7 完成した舟川ダム

〈全水連便り〉

今月号の表紙の写真は、建設省 OB の伊藤様から寄せられました。山梨県と長野県境にある甲武信岳（千曲川の源流）への登山中に撮られたそうです。

皆様からの身近なニュースや写真等の提供をお待ちしています。

今年度の河川愛護月間と森と湖に親しむ月間、それぞれの実施結果を掲載しております。そして、富山県からは、富山県東部に建設された舟川ダム（生活貯水池）が竣工式を行いましたので、そのご紹介記事をお寄せ頂きました。

また、10月に開催する四国地方治水大会（高知県）と、東北地方治水大会（秋田県）、北陸地区大会のご案内を掲載しております。その他の地方治水大会は次回10月号に掲載いたします。

各地方の治水大会には多数の皆様のご参加をお願いいたします。



富岡八幡宮



横綱力士碑



力持碑



大関力士碑